

# 2018 年度人間福祉学部報

## 人間福祉学部・人間福祉研究科開設 10 周年記念式典

人間福祉学部・研究科は、永年の伝統を有する「関学ソーシャルワーク」の教育研究を継承、発展させつつ、さらにはスポーツ科学・健康科学教育研究及び社会経済研究の資源を活かして 2008 年に開設されました。学際的分野の有機的な連携により様々な社会的要請に応えることを目的として教育研究を行ってまいりました。2018 年 4 月に 10 周年を迎え、2018 年 5 月 12 日（土）に人間福祉学部・人間福祉研究科開設 10 周年記念式典を挙行いたしました。式次第は次の通りです。

### ・第 1 部 記念式典

時間 14:00～17:00

場所 G 号館 101 号教室

【開会礼拝】14:00～14:20

- 司式：人間福祉学部宗教主事 嶺重 淑  
奏楽：人間科学科7期生(坂口ゼミ)玉田 綾乃
1. 前奏
  2. 讃美歌「いつくしみ深き」(『讃美歌』312 番)
  3. 聖書朗読 マタイによる福音書 5 章 13-16 節
  4. 祈祷
  5. 式辞 学長 村田 治
  6. 讃美歌「心に愛を」(『讃美歌 21』88 番)
  7. 後奏

【基調講演】14:20～15:30

- 自由と可能性の王国  
- 分断社会を終わらせるために -  
井手 英策 (慶應義塾大学経済学部教授)

【10 周年記念映像資料放映】15:30～16:00

【卒業生(修了生)による近況報告】

16:00～17:00

社会福祉学科 1 期生(前橋ゼミ)大星 勝紀

社会福祉学科 1 期生(松岡ゼミ)國宗 美里  
社会起業学科 1 期生(小西砂ゼミ)松山 律子  
社会起業学科 1 期生(川村ゼミ)藤澤 憲人  
人間科学科 7 期生(溝畑ゼミ)森井 法行  
人間科学科 4 期生(藤井美ゼミ)成田 千恵  
人間福祉研究科修了生(牧里ゼミ)竹内 友章

【閉会の挨拶】17:00

人間福祉学部長 大和 三重

### ・第 2 部 祝賀会

時間 18:00～20:00

場所 関西学院会館 レストランポプラ

1. 挨拶 関西学院院長 田淵 結
2. 祝辞 関西学院大学元学長・元理事長 武田 建  
同志社大学名誉教授 岡本 民夫
3. 食前の祈祷 人間福祉学部宗教主事 嶺重 淑
4. 乾杯 初代人間福祉学部長 芝野 松次郎
5. 会食
6. 退職職員への挨拶  
人間福祉学部元教授 芝野 松次郎  
人間福祉学部元教授 小西 加保留
7. 閉会の挨拶 人間福祉学部長 大和 三重



## ■社会福祉学科

2018 年度における社会福祉学科に関する報告は、例年通り、先生方による報告をまとめる形で行います。可能な限り、先生方の提出されたご報告の表現を尊重させていただきましたので、でこぼこ、ばらつきがある報告になることをお許し下さい。なお、報告は氏名（あいうえお順）順に、敬称略で掲載させていただきました。

### 池埜聡

2018 年度はカリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) 医学部 Mindful Awareness Research Center に留学し、マインドフルネスにもとづくソーシャルワーク実践とトラウマ・インフォームド・ケアの開発を研究課題として日々過ごしています。マインドフルネス指導者の国際認定資格プログラムは想像以上にタフで、これまで 20 本のレポートと 200 時間以上の実習が課せられました。それでも世界中から集まったすばらしき仲間たちとの出会いは一生の財産。多くの学びを持ち帰りたいと思っています。

### 石川久展

2018 年度は、健康上の理由から様々な制約はありましたが、私なりに研究活動や教育活動に取り組みました。研究活動では、これまでの数年の量的調査の研究結果をまとめ、何本かの論文執筆に取り組んでいるところです。特に、英文の論文 1 本を英語の研究雑誌に投稿し、掲載されております。教育活動においては、3 回生のゼミにおいて、この夏、石垣島でゼミ合宿をし、離島や過疎問題について研究をしてきました。来年度は、研究活動及び教育活動の幅をもう少し広げていく予定です。

### 今井小の実

研究室にいる時間より、移動時間も含めると東京で過ごす時間の方が長い生活に入って 2 年目を迎えました。学科の先生方にはご理解とご協力をいただきまして、本当に感謝しております。おかげさまで、4 年生の卒業研究も精度が高く、全員無事、卒業できる見込みとなりました。また 3 年生もお互い切磋琢磨している様子が見られ、頼もしく思っております。

### 大和三重

2018 年度は学部長職の 2 期目を迎え、長年協定を結んでいる吉林大学と共同開催によるシンポジウムの実現に向けて尽力してきました。テーマは「中・日人口高齢化社会対策」で、人間福祉学部から 5 名の教員が吉林大学に招待され、各々の専門分野に基づいて発表しました。その他、ソ教連国際関係委員会の有志による米国の主要な SW 機関の訪問調査に参加したり、7 月にアイルランドで開催された SW の世界大会での研究発表など海外での活動が多くあった 1 年でした。

### 風間朋子

研究演習 I では、講読を中心に学習を進めました。春学期には、『大人のための国語ゼミ』（野矢茂樹）を用いて論理について、秋学期には『原因を推論する』（久米郁男）を用いて因果関係の推論について学び、研究のための基本的な力が身につくように努めました。研究演習 II では、卒業研究の完成を目指しました。春学期には、アウトラインを作成し執筆を始め、秋学期には、修正を繰り返しながら論文の完成度を高めるよう努めました。

### 川島恵美

2018 年度の川島ゼミは、3 回生 11 名、4 回生 17 名です。3 回生はコミュニケーションやグループプロセスを学ぶ演習を中心に 4 回生は、アサーショントレーニングと卒業研究の作成を行いました。研究活動としては、SW 実習入門の学生のふりかえりの内容を 3 年分に渡って分析し、初年次実践教育の要素について明らかにしたいと思っています。また組織開発の共同研究では、保育所の職員組織の変化について事例検討を行いました。

### 佐藤 洋

緊急医療や特殊機器の発展により難治性心疾患の治療が可能になりました。逆に心臓疾患の終末像としての心不全が問題です。救命されても呼吸困難などの心不全症状で苦しみ、動けず、また余命も不明で、突然死の恐怖に怯える日々を過ごしています。がん終末期では多職種協業による緩和医療が今は当然です。一方で、死因 2 位が心臓病であるのに心不全はその病名さえも誤解されています。心不全をよく知っていただきたいと思います。

## 陳礼美

アデルファイ大から学生 11 名が初来日しグローバル演習 A の履修生達と共に合同授業を成功させました。また、初の福祉社会演習独自開拓型の学生 2 名を受け持ち、大阪 CPAO とアメリカのセツルメントでの FW を果たしました。研究／社会活動では国際 SWSD 学会とソ教連で発表、京都市の 100 歳政策への提言、芦屋市の介護保険・老人福祉計画策定の委員長等新しい仕事も頂きました。マクロ SW メンターも 2 年目を迎え、SWⅢの先生方と協力しながら、KG マクロ教育に成果を出して行きたいと考えています。

## 平尾昌也

私は、2018 年 4 月より本学へ着任をいたしました。着任する直前まで、宝塚市内でソーシャル・ファーム (Social Firm) を掲げて NPO 法人を運営、実践を行ってきました。今後は実践者としてではなく、研究者としてソーシャル・ファームと関わっていきたいと考えています。社会活動では、2018 年度より川西市で社会福祉審議会の委員として活動、また同市にて、第 13 回川西市地域福祉市民フォーラムで基調講演を行いました。

## 藤井博志

兵庫県内の福祉実践者との 3 年間の研修開発の成果として、4 日間の地域福祉研修プログラムとテキストを完成しました。同時に、ソ教連において「コミュニティに強いソーシャルワーカー養成研修」の研修委員として企画実施に携わりました。ゼミでは、今年度から西宮市東鳴尾地区にある地域密着型 NPO「まち CAFÉ なごみ」と提携して、地域ニュースの発行と老人福祉センターの再活用にゼミ生全員で関わっています。

## 前橋信和

この一年は、2016 年の児童福祉法改正、児童虐待問題の深刻化等の子ども家庭福祉分野における課題への対応を求められることが多く、調査研究や各種委員、研修講師など忙しく過ごしました。ゼミでは、多くの学生が 3 年、4 年実習に参加し、また、例年以上に多数の学生が福祉分野への就職を選んでくれました。ゼミでの施設見学を

続けていると、福祉施設から少年院などに希望が変化していることも興味深いです。

## 松岡克尚

障害学生支援をベースにインペアメント文化の研究と、多職種連携について研究を進め、中間成果を論文にまとめています。障害者計画、手話言語条例を中心に行政の審議会に参加してきました。3 年ゼミでは、夏のオープンキャンパスでの高校生向けプレゼン、障害者週間の啓発企画、春の「みんなの大学」企画を実施しました。4 年ゼミでは卒業研究が中心で、各自の関心に沿って調べたことを大学生生活の集大成として卒論にまとめました。

## 安田美予子

3 年ゼミでは、「社会福祉法人北摂杉の子会ジョブジョイントおおさか」から出された課題「発達障がいを持つと思われる大学生が学内外の支援機関とつながるためには、どうしたらよいか？」に取り組みました。ゼミ生達は、本学の総合支援センターの職員の方々や企業・特例子会社で働いている発達障がいを持つ方々のお話をうかがい、特例子会社や企業を訪問し、本学の学生や内外の支援者の方々に調査を行ったりして、課題に取り組みました。

## 李善恵

今年度から社会福祉法人向上社の評議員のメンバーに加え、保育園と児童館を通じた地域との連携にかかわっています。また、研究テーマであるイエス団のキリスト教社会福祉実践の歴史的変遷を探るため、神戸賀川記念館や東京の松沢賀川記念館で資料調査を行っています。福祉社会フィールドワークの授業をきっかけに、在日コリアン高齢者の生活実態やデイサービスの利用状況の調査を行っています。今年度 11 月から 1 年間、公益財団法人ユニバーサル財団の研究助成を受け、「在日コリアン高齢者に対する介護サービス提供のあり方～居場所としてのデイサービスを考える～」という今までとは異なるテーマで研究にも取り組んでいます。

(今井小の実)

## ■社会起業学科

人間福祉学部社会起業学科が開設され 11 年目を迎えました。本年度は 78 名の 1 年生が新たに加わり、2 年生 77 名、3 年生 72 名、4 年生 85 名、総勢 312 名でスタートしました。そして、今井千尋准教授が仲間に加わったことで、本学科の教育・研究に厚みと活気がさらに増しました。

今井先生は、これまで国際 NGO、民間財団、政府開発援助 (ODA) 実施機関、政府機関、研究機関において、プロジェクトの計画・実施・モニタリング・評価に関わり、社会起業学科では、国際問題演習、社会起業インターンシップ等の授業を担当しています。

人間福祉学部が開設された 2008 年度以降、社会起業学科ではさまざまな取り組みを行ってきました。反省点や課題を残すこととなった取り組みもありましたが、それらを教職員のみならず、時には学生とも共有しながら改善することにより、魅力的な取り組みとなるように努めてきました。本年度も学科の特色を反映した取り組みを数多く実施しましたので、その概要を下記に示します。

### ① 社会起業学科新入生歓迎プログラム「これが社起や DAY !2018」

社会起業学科では、新入生歓迎プログラムとして、「これが社起や DAY!」を毎年 4 月に実施しています。これは、「社会起業に関する学びと学生間交流」、「学科への求心力の向上」を目的としており、「学び」の部分では、授業紹介やゲストスピーカーの講演等を行い、「交流」の部分では、共に身体を動かしたり、食事をしたりして交流を深めています。今年度の概要は下記の通りです。

- ・日 程：2018 年 4 月 7 日 (土)
- ・会 場：関西学院大学 G 号館および学生会館新館 1 FOFF TIME
- ・参加者：1 年生 68 名、学生スタッフ 12 名 (2 年生)
- ・内 容：礼拝、ゲストスピーカーによる講演、授業紹介 (実践教育関連)、レクリエーション、懇親会
- ・ゲスト：牧里毎治 名誉教授

### ② 社会起業英語中期留学

社会起業学科では、国際的なソーシャル・サービス領域で働いたり、起業したりするために必要な語学の修得を目指し、カナダのクイーンズ大学の School of English で世界各国からの参加者と共に 12 週間の語学プログラムに参加します。

今年度は、社会起業学科の 2 年生 8 名が参加。8 月 11 日、参加者全員がプログラムを修了し、無事帰国しました。

参加学生の生き生きとした表情から、充実した 3 ヶ月の留学生活が感じられました。なお、人間福祉学部の HP にて帰国した 8 人の掲載をしています。( [https://www.kwansei.ac.jp/s\\_hws/news/2018/news\\_20180811\\_020429.html](https://www.kwansei.ac.jp/s_hws/news/2018/news_20180811_020429.html) )

### ③ 社会起業インターンシップ

#### 1) インターンシップ (国内)

今年度は 2 名の学生が国内インターンシップに取り組みました。国内の NPO 法人において、3 年生の夏季休暇中に 3 週間の日程で行いました。インターンシップ先は下記の通りです。

- ・NPO 法人かさおか島づくり海社
- ・NPO 法人西淀川こどもセンター

#### 2) インターンシップ (海外)

今年度は 2 名の学生が海外インターンシップに取り組みました。海外での社会貢献活動について学ぶこと、海外での実践力を高めること、異文化の環境のなかで働く能力を養うこと、社会の問題と課題を把握し取り組む能力を高めること、を目標に、夏季休暇中に 6 週間のインターンシップを行いました。インターンシップ先は下記の通りです。なお、インターンシップ先としては、テロの危険性を鑑み、実習先 (相手国) の選定には安全を考慮しています。

- ・バティス女性センター (フィリピン)

### ④ 社会起業フィールドワーク

#### 1) フィールドワーク (国内)

今年度は 65 名の学生が国内フィールドワークに取り組みました。“現場から学ぶ社会起業の課題と取り組み”として、街に出て、社会的課題に直面している当事者の方や問題解決に向けて取り組みを行っている社会起業家にお会いしました。

その中で、問題解決に取り組む姿勢を学び、人と会い、質問しながらお話を聞き、それをまとめて整理し、他人に伝える技術を獲得することを目的に、団体取材させていただき、その様子を示すスライドショーを作成しました。インターンシップ先は下記の通りです。

- ANA ウィングフェローズ・ヴィ王子株式会社
- NPO 法人暮らしづくりネットワーク北芝)
- LITALOCO ワークス尼崎
- NPO 法人山科醍醐こどもの広場

## 2) フィールドワーク (海外)

今年度は17名の学生が海外フィールドワークに取り組みました。“現場で学ぶ国際協力”をテーマに、タイを訪れました。国内フィールドワークと同様、団体取材させていただき、ビデオを作成しました。インターンシップ先は下記の通りです。

- タイ (バンコク・チェンマイ・アザンブション大学)

## ⑤ 実践教育報告会

人間福祉学部各学科の実践教育を報告する場として、実践教育報告会が12月15日(土)に開催されました(G号館301号、201号、202号教室)。本学科からも、フィールドワーク、インターンシップ、アドバンストインターンシップ等の実践教育科目に取り組んだ学生が、ポスター発表

形式で報告を行いました。3学科合同開催であるため、他学科の学生との意見交換や情報共有も活発に行うことができ、自らの関心領域を広げることにつながったと思われます。

## ⑥ オープンキャンパスでの社会起業学科イベント

8月4日(土)～5日(日)の日程で、関西学院大学上ヶ原キャンパスのオープンキャンパスが開催されました。本学科からは、「子どもの学習支援」(山本隆先生)と「スポーツ×地域活性化みるスポーツが持つ課題解決力と地域のにぎわいづくりの可能性」(林直也先生)、の講義を行いました。また、10月22日(土)に開催されたオープンキャンパスでは、「学生による社会起業の実現」(大熊省三)の講義を行いました。

## ⑦ 2年生の秋の学年懇親会

社会起業学科では、毎年2年生を対象に、「研究演習Ⅰ」の選択に向けた懇親会を実施しています。教員とじかに話ができるいい機会であり、学生たちから好評を得ている取り組みです。本年度は、10月3日(水)に「Spoon Café」で開催予定し、学生、教員合わせて62名ほどが参加して有意義な時間を過ごしました。

(大熊省三)

## ■人間科学科

人間科学科が開設されて10年目となりました。今年度は、96名が新生として加わり、2年生108名、3年生101名、4年生114名の総勢419名でスタートしました。前年度の卒業生（7期生）は105名で、卒業後の進路は、一般企業（金融・保険、製造、卸売など）、公務員、教員、医療・福祉など、多岐に渡っています。就職を希望する学生における就職決定者の割合、いわゆる就職率は人間福祉学部全体で100%と、昨年度に引き続き高水準で推移しています。

人間科学科では、ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）として「人間科学に関する専門的知識を身につけ、質の高い生活と社会の実現に貢献できる」ことを掲げており、具体的には死生学・スピリチュアリティを中心とした学問分野、身体運動科学・身体パフォーマンスを中心とした学問分野の両領域、すなわち「こころ」と「身体」の両面から人間を深く理解することを学生の学修成果の目標としています。この方針に基づき、カリキュラムが編成されており、「人間科学入門」「人間科学実習入門」「人間科学フィールドワーク入門」「人間科学フィールドワーク」といった人間科学科独自の科目も開講されています。今年度の授業の概要を以下に紹介します。

### 「人間科学入門」

1年次春学期の必修科目であり、人間は、その誕生から死に至る様々な局面において、どのようなことを経験し、こころと身体がどのように変化していくのかという点について、学科の全教員がオムニバス形式で授業を担当しています。今年度は、各教員の専門分野に応じて、「誕生」「発育発達と運動」「教育と社会」「悩み」「素質」「指導者」「身体運動の魅力」「結婚」「自己実現」「死別」「老い」「死」という各回のテーマを設定し、授業が行われました。最終回には、2013年卒の宮野麻里さん（坂口ゼミ）、2014年卒の後藤明日香さん（溝畑ゼミ）をゲストスピーカーとしてお招きし、人間科学科で学んだことが現在の自分にとってどのように活かされているかについて話していただきました。

### 「人間科学実習入門」

2012年度に新設された1年次秋学期の必修科目であり、学科教員によるオムニバス形式の授業に加え、合宿を例年行っています。今年度の合宿は、10月13日（土）～10月14日（日）の日程で、昨年度と同様、淡路島の国立淡路青少年交流の家で実施されました。1日目は開講式・アイスブレイクの後、午後からは、心拍計を装着し、決められた数カ所のポイントを辿り、往復約7kmを歩くという「チャレンジハイク」が行われました。夕食後には、こころ系プログラム「こころカフェ①」が行われました。2日目は身体系プログラム「チャレンジハイクで得られた心拍数の分析」、こころ系プログラム「こころカフェ②」が行われ、無事に合宿を終えることが出来ました。

### 「人間科学フィールドワーク入門」

現場での実習に向けての前段階として、必要な基礎知識を学ぶための科目と位置づけて、2年次秋学期に開講しています。受講者数は昨年度とほぼ変わらず47名が履修となりました。この授業では、フィールドワークの心得や記録の書き方などを学んだうえで、希望する実習先でのフィールドワークプランを作成し、体験実習を行います。今年度は、「大阪YMCA」「ヴォーリズ記念病院ホスピス希望館」「長野総合スポーツクラブ」「庄内わんぱくの杜」「農家民宿」「あおぞら色彩楽園」「神戸レインボーハウス」の計8箇所の実習先にご協力いただき、実習を実施しました。

### 「人間科学フィールドワーク」

人間科学科での学びの集大成ともいえる科目であり、実際のフィールドでの実習を通して、こころと身体の両面からの人間への深い理解と支援のあり方を体得するとともに、自己への洞察を深めることを目的としています。今年度は9名の学生が履修し、小学校や保育所、音楽療法の現場やホスピス、スポーツ指導の現場などで実習を行いました。各学生が自らのこれまでの学びやバックグラウンドを踏まえて実習計画書を作成し、担当の教員の指導のもと、座学では学ぶことの難しい貴重な学びを得ることができました。

授業以外では、8月4日（土）、5日（日）に開

催された西宮上ヶ原キャンパスでのオープンキャンパスにて、学科独自イベントとして、学科の学びに関するパネル展示に加え、「こころカフェ」を実施しました。「こころカフェ」は、虐待やいじめ、自死、ターミナルケア、生きがいなどのテーマを通して「生きること」、「こころ」について、本学の院生や学部生と、来場した高校生が自由に語り合うことのできる場として一昨年度から開催しています。今年度は、4日（土）、5日（日）の両日各2回の計4回行いました。こころカフェの参加人数（生徒数）は、2日間で60名でした。「パネル展示」「相談」「こころカフェ」全体での来場者は、233名（生徒164名、親69

名）でした。

学部・学科開設から11年の節目を迎え、学部・学科の今後のありようを考える時機でもあります。人間福祉学部では2020年度からの新カリキュラムの開始に向けて準備が進められています。人間科学科においても、「こころ」と「身体」の両面から人間を理解するという学科の理念を大切にしつつ、人間科学科の特色を活かした教育・研究活動のさらなる充実や展開が求められています。魅力ある人間科学科の将来像を皆様とともに描いていきたいと思えます。

（山 泰幸）

## ■言語教育

### ・必修英語科目

人間福祉学部では、必修外国語科目として英語講読と英語表現を設けています。学生の習熟度と第 2 外国語の選択科目に対応するため、クラス数は 15 となっています。流暢さの向上と素早く的確に情報を読み取る能力を養うために、英語講読ではすべてのクラスで多読を授業外の課題としています。副読本の拡充と管理の適正化をはかり、学年により図書館蔵置のものと学部資料室蔵置のものとを使い分けています。専門教育への橋渡しとなるべく、人間福祉学部の社会福祉・社会起業・人間科学 3 学科と英語科の教員が分担執筆したテキストを使用しています。現在はその 2 冊目（『English for Human Welfare Studies』2016 年 1 月、朝日出版）を使用しています。また 1 年次の英語表現 A/B では、本学部の英語教育方針を反映したシラバスに沿う授業進行をはかるため、本学部英語教員が作成した教科書（『English Beams』2016 年 1 月、金星堂）を使用しており、来年度より 2 年次の英語表現 C/D においても、本学部英語教員が新たに作成した教科書（『Real Writing－大学生のためのエッセイライティング入門』2019 年 4 月出版予定、南雲堂）を使用します。

より英語力を高めたい学生には、必修英語科目に替えて受講できるプログラムや科目が別途用意されています。一定の要件を満たせば、1 年生春

学期、または 1 年生秋学期から履修することができます。なおこれらのコースを受講する場合、後述の人間福祉学部が提供する英語コミュニケーションを第 2 言語として選択することはできません。外国人留学生には日本語 I を必修科目として開講しています。

### ・第 2 言語科目

選択必修の第 2 言語としては、人間福祉学部が用意する英語コミュニケーション、日本手話、および言語教育センターが用意するスペイン語、フランス語、ドイツ語、中国語、朝鮮語のうちの 1 言語を 1・2 年次 4 学期間履修することを義務付けています。原則として途中で言語を変更することは認めていません。なお外国人留学生用選択科目として基礎英語を用意しています。以下に①英語コミュニケーション、②日本手話、③スペイン語についての概略を紹介します。

①英語コミュニケーションの授業では、英語による異文化間コミュニケーション能力育成と多文化共生意識の涵養をはかり、ゲストスピーカーを招いた授業や交換留学生との交流を取り入れた授業を行っています。ゲストスピーカーの選定にあたっては、英米出身であっても英語圏における文化がもつ多様性を伝えられる方を講師とするよう心掛けており、非英語圏出身者で国際共通語として英語を用いた活動をしている方には、その活動フィールドや内容などを語っていただいています。



(写真 1)



(写真 2)

春学期には交換留学生をクラスに招き、自分たちの国や文化についてお互いにプレゼンテーション・質疑応答を行い、異文化交流を図りました。(写真1、2)

②本学部の設置趣旨に沿い実施されている日本手話では、学年の約1/3にあたる約100名の学生が受講しています。

手話実技の練習には学生1人当たり一定の空間が必要となるため、1クラス15名に限っています。週2コマのうち1コマをネイティブ・サイナーの講師による実技学習に充て、もう1コマを「聴者」講師による「ろう文化概論」「日本手話概論」「文法」に充てています。

実技学習は、手話で手話を教えるダイレクトメソッドを採用し、また幼児の言語習得原理に基づくナチュラルアプローチを中心に進めています。実技学習（もしくは実技の授業）では音声は禁止され、音声日本語の干渉を受けない環境の下で手話習得を促進し、同時にろう者の基本的会話マナーを学んでいきます。「ろう文化概論」では、ろう者のゲストスピーカーを招いていますが、その様子を録画し、資料室で閲覧可能にしています。授業で学んだ日本手話を授業外でも活用できる機会として、ろう者を招いての交流会、有志による施設見学、日本手話でろう者を観光地ガイドする体験、なども実施しています。

2年次の秋には、グループによる日本手話やろう文化に関する「日本手話研究会」を開催し、音声日本語でプレゼンする際の手話通訳の利用方法を学ぶ機会を設けています。

③スペイン語は言語教育研究センターが提供している科目であり、全学共通カリキュラムにより運

営されています。スペイン語圏でも特に中南米は、貧困などの多くの社会問題を抱えている点、また近年急速に発展し、外国資本の流入が大きくなっている地域が増加している点など、人間福祉学部における学びを大いに活かせるフィールドであると言えます。また、日本国内にも中南米出身者が多く在住し、スペイン語や近縁のブラジル・ポルトガル語文化への理解が地域社会の福祉を考える上で必須となっています。そのためスペイン語科目を履修する本学部生には2年間の履修期間が終了するときには、自分自身や自分自身を取り巻く事柄を簡単なスペイン語で表現でき、辞書を使えば、本やインターネットなどで自分に必要な情報を得ることができるようになることを学習目標としています。授業は週2回開講されていて、1クラスは日本人教員が主に文法を教え、もう1クラスはネイティブ教員が会話や言語運用の授業を行っています。

人間福祉学部では、例年30名前後の学生がスペイン語を履修しています。大学に入学して初めてスペイン語を学ぶ学生が多く、なじみある英語とは異なるスペイン語の特性のために学習を困難に感じる学生もいますが、1年目の秋に入ると様々な語形変化や動詞活用形に慣れてきて、「面白くなってきた」と熱心に勉強し始める学生も少なくありません。授業ではスペイン語で意思伝達や情報収集ができる学生の育成に重点を置いています。スペイン語圏の文化や社会日本に暮らすスペイン語圏出身者に関する教材や資料なども使用し、異文化理解を深め、多文化と共生していくための下地を学生の中にも作ることができるよう努めています。

(茨木正志郎)

## ■チャペル

日時	奨励者	主題等
4月9日(月)	嶺重 淑(宗教主事)	チャペル・オリエンテーション①
11日(水)	嶺重 淑(宗教主事)	「地の塩として」
13日(金)	嶺重 淑(宗教主事)	チャペル・オリエンテーション②
16日(月)	広瀬康夫(吉岡記念館職員)	讃美歌を歌おう①
18日(水)	献血実行委員会	春の献血週間を覚えて
20日(金)	広瀬康夫(吉岡記念館職員)	讃美歌を歌おう②
23日(月)	藤井美和(人間科学科教員)	「私の友、あなたの友」
25日(水)	嶺重 淑(宗教主事)	イースターを覚えて
27日(金)	聖歌隊	讃美歌を歌おう③
30日(月)	グリークラブ	音楽チャペル
5月2日(水)	川島恵美(社会福祉学科教員)	「幸せの物差し」
4日(金)	茨木正志郎(英語科教員)	「留学の思い出」
7日(月)	バロックアンサンブル	音楽チャペル
9日(水)	今井小の実(社会福祉学科教員)	幼き日の思い出①
11日(金)	石川久展(社会福祉学科教員)	「若い日における神との出会い」
14日(月)	混声合唱団エゴラド	音楽チャペル
15日(火)	大学合同チャペル第1日	於)中央講堂
16日(水)	大学合同チャペル第2日	於)中央講堂
18日(金)	李 善恵(社会福祉学科教員)	情熱(パッション)
21日(月)	嶺重 淑(宗教主事)	賛美歌練習
23日(水)	ゴスペルクワイア(POV)	音楽チャペル
25日(金)	嶺重 淑(宗教主事)	「タラントを活かして」
28日(月)	宗教総部	活動報告
30日(水)	中野陽子(英語科教員)	幼き日の思い出②
6月1日(金)	孫 良(社会起業学科教員)	幼き日の思い出③
4日(月)	ルース・グーベル(社会学部宣教師)	宣教師ウィークに思うこと
6日(水)	嶺重 淑(宗教主事)	幼き日の思い出④
8日(金)	木原桂二(北山バプテスト教会牧師)	「発見される喜び」
11日(月)	武田 文(社会起業学科教員)	幼き日の思い出⑤
13日(水)	ハンドベルクワイア	音楽チャペル
15日(金)	嶺重 淑(宗教主事)	「古いものと新しいもの」
20日(水)	宗教総部献血実行委員会	夏の献血週間を覚えて
22日(金)	橋本 祐樹(神学部助教)	「新しい命への招き」
25日(月)	小西砂千夫(社会起業学科教員)	「山本栄一先生との出会い」
27日(水)	嶺重 淑(宗教主事)	賛美歌練習
29日(金)	聖歌隊	音楽チャペル
7月2日(月)	村上陽子(スペイン語科教員)	幼き日の思い出⑥
4日(水)	大宮有博(法学部宗教主事)	「人間の価値は神が決める」
9日(月)	田淵 結(院長)	「平和をつくりだす人たち」
11日(水)	市瀬晶子(人間科学科教員)	「必要なことは一つだけ」
13日(金)	大和三重(学部長)	春学期最終チャペル

日時	奨励者	主題等
9月21日(金)	嶺重 淑(宗教主事)	秋学期を迎えて
24日(月)	嶺重 淑(宗教主事)	「映像で見る関西学院の歴史」
26日(水)	木原桂二(北山バプテテスト教会牧師)	「マスターリー・フォー・サービス」
28日(金)	嶺重 淑(宗教主事)	創立記念日を覚えて
10月3日(水)	宗教総部献血実行委員会	秋の献血週間を覚えて
5日(金)	大石健一(茨木春日丘教会)	「求めよ、そうすれば好き同士になれるかも」
8日(月)	聖歌隊	音楽チャペル
10日(水)	藤井博志(社会福祉学科教員)	「社会福祉の道で出会った人々」
12日(金)	大熊省三(社会起業学科教員)	幼き日の思い出⑦
15日(月)	山 泰幸(人間科学科教員)	幼き日の思い出⑧
17日(水)	嶺重 淑(宗教主事)	「隠された宝」
18日(木)	大学合同チャペル：第1日	於：中央講堂
19日(金)	大学合同チャペル：第2日	於：中央講堂
22日(月)	バロックアンサンブル	音楽チャペル
24日(水)	嶺重 淑(宗教主事)	「運命愛とニーチェ」
26日(金)	New Directions	音楽チャペル
29日(月)	宗教総部	活動報告
31日(水)	嶺重 淑(宗教主事)	宗教改革記念日を覚えて
11月5日(月)	小西砂千夫(社会起業学科教員)	「赦されることの少ない者は愛することも少ない」
7日(水)	安田美予子(社会福祉学科教員)	「日常とそれを越えるもの」
9日(金)	ゴスペルクワイア(POV)	音楽チャペル
12日(月)	溝畑 潤(人間科学科教員)	「One for All, All for One」
14日(水)	桜井 智恵子(人間科学科教員)	「すべての人にほめられるとき」
16日(金)	嶺重 淑(宗教主事)	「自己愛とエゴイズム」
19日(月)	ハンドベルクワイア	音楽チャペル
21日(水)	嶺重 淑(宗教主事)	「そうなりたい自分とそうである自分」
26日(月)	李 善恵(社会福祉学科教員)	「友のために」
28日(水)	米谷友里子(教務補佐)	クランツ作り&ツリー飾り付け
30日(金)	山内慎平(神学研究科 M2)	「怖さなんて吹き消して」
12月3日(月)	嶺重 淑(宗教主事)	アドベントを覚えて
5日(水)	嶺重 淑(宗教主事)	クリスマス賛美歌練習
7日(金)	宗教総部献血実行委員会	冬の献血週間を覚えて
10日(月)	大学合同アドベントチャペルに合流	於：中央講堂
12日(水)	人間福祉クリスマス・リハーサル	
14日(金)	人間福祉学部生によるゴスペル演奏	音楽チャペル
17日(月)	嶺重 淑(宗教主事)	「最高の贈り物」
19日(水)	駒木亮牧師(泉佐野教会牧師)	「愛の告白」
21日(金)	嶺重 淑(宗教主事)	「静かなクリスマス」
1月7日(月)	嶺重 淑(宗教主事)	新しい年を迎えて
9日(水)	震災を覚えるチャペル	於：ランバス記念礼拝堂
11日(金)	大和三重(学部長)	一年を振り返って

※6月18日(月)は地震のため、7月6日(金)は豪雨のため、10月1日(月)は台風のため中止した。

\*上記の通り、2018年度は、春学期41回、秋学期41回、計82回（合同チャペルを含む）のチャペルアワーを実施した。出席者はほぼ例年並みで、特に各種音楽団体による音楽チャペルには毎回多数の出席者が見られた。奨励の多くは人間福祉学部の教員が担当し、今年度は昨年度に引き続き、「幼き日の思い出」という共通テーマを設定し、計8人の先生方にこの主題で奨励していただいた。来年度は今年度の反省を踏まえ、さらに充実したチャペルプログラムを提供できるよう努めていきたい。

#### ※2018年度クリスマスチャペル報告

学部のクリスマスチャペルは例年と同様、クリスマス礼拝とクリスマス祝会とに分けて実施し、クリスマス祝会を12月12日（水）の夕刻（18:30～20:20）に例年と同様、学生会館新館 OFF TIME で開催し、クリスマス礼拝は12月19日（水）の通常のチャペルアワーの時間帯（10:35

～11:05）に実施した。クリスマス祝会では、最初に短く礼拝の時間を持ち、ハンドベルクワイアの演奏を聴いた後に「祝会」の部に移り、学生・教職員が軽食をともにしつつ、バロックアンサンブルやギターの演奏、教員クワイアやウィメンズ・グリークラブの合唱を聴き、落語を楽しみ、さらに大和学部長扮するサンタからのプレゼントに興じたりしながら、楽しいひとときを過ごすことができた。また、クリスマス礼拝は人間福祉学部チャペルで静かに守り、日本キリスト教団・泉佐野教会牧師の駒木亮先生より「愛の告白」という題でクリスマスのメッセージを語って頂いた。

参加者はクリスマス祝会が100名弱、クリスマス礼拝の出席者は約50名で、例年とほぼ同数であった。特に祝会については、開催時期や内容等、様々な課題もあるが、来年は今回の反省点を踏まえてプログラム内容等を今一度検討し、より親しみやすいものになるように工夫していきたい。

（嶺重 淑）

## ■外国人留学生懇談会

2018年度「外国人留学生懇談会（ランチミーティング）」を開催

外国人留学生（学部・研究科）と教職員による「外国人留学生懇談会（ランチミーティング）」を2018年6月6日（水）の昼休みに開催し、25名の学生・教職員が参加しました。

外国人留学生が日本での留学生生活をより充実し

たものとして送ることができるように、大学生活に関することや進路について、また日頃感じていることなどを、昼食を交えながらざっくばらんに教職員と話せる機会としました。

和やかな雰囲気の中、勉強や就職活動、日常生活など様々なことについて語り合いながら学生・教職員が交流を深め、有意義なひとときとなりました。

（山 泰幸）



## ■人間福祉学部優秀卒業研究賞「あじさい賞」

人間福祉学部では、故 浅野仁名誉教授の寄付により、優秀な卒業研究を執筆した学部学生の努力を称えるため、優秀卒業研究賞（通称「あじさい賞」）を設けています。

名前の由来は、あじさいを同氏が好まれたことによります。

最優秀賞・優秀賞には表彰状と副賞（図書カード 10,000 円）が贈られます。

2017 年度の受賞者は次のとおりです。

### ・最優秀賞

福田 拓哉

少年院出院後の少年たちと関わる時  
－支援者に求められる価値観のインタビュー  
－調査結果－

### ・優秀賞

濱本 美咲

アニメの中の神社 －コンテンツにおける  
神社の表象と聖地巡礼－

中川 桜

犯罪被害者遺族による亡き人の生きた証を  
伝承する活動 －「生命（いのち）のメッ  
セージ展」の効果の検証－

### 人間福祉学部優秀卒業研究賞規程

（目的）

第 1 条 学校法人関西学院は、浅野仁氏（本学名誉教授）よりの寄付金をもって、人間福祉学部優秀卒業研究賞を設定する。

2 この賞は、人間福祉学部学生の学習・研究意欲を高め、勉学の向上をはかることを目的とする。

（資格及び交付）

第 2 条 この賞は、毎年人間福祉学部において優秀な卒業論文等を執筆した学生に授与する。受賞者を毎年若干名とし、受賞者には賞状と副賞を授与する。

（所管及び運営）

第 3 条 人間福祉学部に優秀卒業研究賞（浅野賞）選考委員会を設け、受賞者の選考に当たる。

2 選考委員会の構成及び選考方法については別に定める。

（規程の改廃）

第 4 条 この規程の改廃は、選考委員会の議を経て、人間福祉学部教授会で決定し、理事会の承認を得るものとする。

附 則

この規程は、2011 年（平成 23 年）4 月 1 日から施行する。

〔2017年度 人間福祉学部優秀卒業研究賞・最優秀賞 要旨〕

## 少年院出院後の少年たちと関わる時 — 支援者に求められる価値観のインタビュー調査結果 —

福田 拓哉

1. 目的：少年院内において、少年らは処遇の受け手として振る舞うが、出院して社会に出た途端、彼らは主体的に自らの人生を歩んでいかなければならない。しかし、この主体性と客体性という大きなギャップが社会復帰を目指していくときの大きな壁となる。そこで、少年ら自身がこの壁を乗り越えて社会復帰をしていくことを支援するときに、支援者として求められる価値観を明らかにすることが本論文の目的である。

2. 問題の背景：平成19年版犯罪白書では、28.9%の再犯者によって、全体の57.7%の犯罪が引き起こされていることが示されている。少年犯罪においても、平成23年版犯罪白書によると、20代に刑事処分を受けた者のうち、22.1%が少年院出院者であることが示されており、また20代未満においても、平成28年版犯罪白書によると、平成27年の再非行少年人員数は検挙人員全体の36.4%を占めており、出院者の再犯対策の重要性が語られている。仮に再犯がゼロになれば、犯罪件数全体の約6割の事件がなくなるというインパクトを考えれば、社会復帰の失敗である再犯・再非行を防ぐことで被害者を生まない社会をつくる、元非行少年らの社会復帰のための支援は重要だと考えられる。

3. 定義：①福祉的な支援：個人レベルにおいて自己実現が可能な状況をつくることを福祉と定義し、またそのために当人の置かれている外的条件を整えること、具体的には、当人自身に対するエンパワメントや環境調整により、当人が選択できる選択肢を増やしていくことが福祉的な支援であると定義する。②職親プロジェクト：日本財団の再犯防止プロジェクトのひとつであり、引き受け企業の社長が保護受託者となって再犯防止を目指すプロジェクトである。③非行少年：職親プロジェクトの取り組みに着目するため、非行少年を

15歳以上の義務教育を終えた少年で罪を犯した少年のことであると定義する。

4. 文献レビュー：①理論：津富（2009）は、処遇内における犯罪者の主体性や客体性に着目して、犯罪者処遇をネガティブモデル、中立モデル、ポジティブモデルの3つに分類する。犯罪者を制裁や治療の対象とする従来のネガティブモデルから、犯罪者を社会に貢献する能力と才能を持つ資源としてみる長所基盤モデル（マルナとラベル，2011）に代表されるポジティブモデルへとパラダイムシフトが起こっていると津富（2009）は述べる。元犯罪者を制裁の対象やリスク要因としてみなすのではなく、社会における資源であると考え視点が重要視されはじめている。②先行研究：元犯罪者が再び犯罪行為をしようかを区別する1つの大きな要因は、他者に対する生成的な活動家としての役割が挙げられるという（マルナ，2013）。このことに関連してBrown（1991）は、「逸脱者としてのキャリアを、その道の専門的なカウンセラーとして歩むことで脱した人々」（p.219）を例に挙げて、「元当事者である専門家」としての役割獲得の可能性を示唆する。少年たちが出院後の社会で「価値ある役割を持った市民」（Veysey & Christian, 2009, p.27）になれるかどうか、社会復帰の鍵を握るといえよう。

5. 実証研究：①調査目的：元非行少年たちとの関わりに求められる、支援者としての価値観について明らかにする。②仮説：探索的研究のため、設定しない。③調査方法：少年院内と出院後のギャップを埋める働きをする職親プロジェクトに含まれる中間支援施設の支援者4名に対して、半構造化質問法によるインタビュー調査を行う。④分析と調査結果：A氏には、①（死別した自身の母が喜ぶ生き方をする）②利他・社会貢献・世のため人のために行うこと③環境で人は変わると

いう信念④安心して暮らせる家庭、ちゃんと向き合ってくれる大人の必要性⑤長所の活用という5つの姿勢がみられ、B氏には①障害や特性にあわせた教育をすること②偏見を持っていないこと③1人ひとりに対して深く関わりたいという想いの3つの態度が認められた。また、C氏には①自分自身と向き合い、強みを発見すること②文化が社会を変えるという信念といった2つの想いが強くみられ、D氏には①自己受容②客観視すること③選択肢④本質的になにを学ぶのかという意識の重要性⑤レッテルを貼らないこと⑥できることはさせるという姿勢⑦社会での活躍を意識した上

で、生活と社会との両輪でサポートするという姿勢の7つの心がけが見受けられた。

5. 考察と提言：支援者4名の支援に対する姿勢は、①偏見を持たない（持ってない）こと②1人1人と向き合うこと③少年に対して画一的ではなく、個別に接すること④客観視すること⑤環境が人を変えるという信念の5つに統合される。ここから、少年院出院後の少年らと関わる時、支援者には、少年らのフェーズに合わせてこの5つの段階的な価値観が求められるという、支援者に求められる価値観に対する社会復帰への段階モデルが提言される。